# 今、相模原の教育に求められているものは・・・

## 研究員研究の紹介

相模原市の教育の実状をとらえ、何が教育課題かを明らかにすることは、本市教育実践の推進には必要不可欠です。そのために確かな調査・研究の推進が求められています。

総合学習センターでは、本市の学校教育・社会教育の向上を目指して、学校、地域社会の教育課題を積極的に取り上げ、組織的・計画的な調査研究を行っています。これまでも、その時々の教育課題を積極的に取り上げ、既に２００以上の研究が報告されました。

今年度も新たに４つの研究を立ち上げました。テーマ３「豊かな心を育てる地域教材」に関わる研究には、市民２名が研究員として加わっています。どの研究も、相模原の子どもに『生きる力』を育むための今日的な課題であり、学校や地域からもその研究成果について期待が予想されます。内容や方法などへのご意見もいただきながら、２年間の研究に尽力したいと思います。

### 平成２０・２１年度研究テーマ

テーマ 1

「図画工作科、美術科をとおして、鑑賞の能力の育成を図る学習のあり方」に関わる研究

テーマ 2

「思考力･判断力･表現力等の育成のための授業改善」　に関わる研究

テーマ 3

「豊かな心を育てる地域教材」に関わる研究

テーマ 4

「普通教室におけるICT機器の実践的活用」に関わる研究
～基礎的･基本的な知識･技能をしっかりと身につけさせる授業を目指して～

４月９日、研究員の委嘱式がおこなわれました。委嘱式第２部では、慶應義塾大学准教授の藤本和久先生を講師にお招きし、教育研究の基礎・基本や研究員としての心構えについて、また、課題解決へのせまり方や研究集録のまとめ方などについてのお話をいただきました。

その中で、『研究から、子どもにとっての必然性が失われてはいけない。研究のための研究になってはいけない』という先生の言葉に、集まった多くの研究員が大きくうなずいていました。

その後、各テーマごとに集まり、第１回研究員会が行われました。研究員の自己紹介から始まり、研究テーマや研究内容について、初回から熱心な協議が繰り広げられました。

今後､月に１～２回のペースで研究員会が開かれ、テーマごとの調査と研究が進められます。